

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 4月 1日

事業所名 発達支援ルームゆあーず門真

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%		
	2 職員の配置数は適切である	100%	0%	専門性のある職員を配置しています	経験豊富な職員が未経験の指導をしている
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0%	100%	わかりやすいように視覚化を意識している	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	毎回の療育後に、担当職員が振り返りを行い、次の支援につなげていきます	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	毎回の療育後に、担当職員が振り返りを行い、次の支援につなげていきます	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	法人内で、年に12回の研修を行っています	外部研修への参加を積極的に行っていく	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	毎年、保護者にアセスメントシートを書いてもらい、職員間で話し合い、計画を作成しています	家庭や学校など環境を踏まえて考えていけるようにする
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	独自で作成したツールを使用。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	ミーティングや療育前にも必ず注意点や目的など話し合っている	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	ミーティングや療育前にも必ず注意点や目的など話し合っている	毎回の活動記録を参照し、支援目標を持って療育に臨んでいます
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	個別療育なので大きく変わらないが、精神面の安定する子が多いので、普段できないことにも挑戦することもある	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	ペア療育は子どもを見て組み合わせを考えています。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	支援開始前には、必ず利用者の特性や前回の状況を共有し、支援内容を決めています	保護者対応や子どもの様子など職員間で共有しその時々で連携をしていけるように考えている
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	支援終了後に、全員でフィードバックを行い、意見を出し合っで、次の支援につなげるようになっています	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	フィードバックの後に、担当者がその日の療育内容を療育記録とサービス実施記録にも記載しています	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	職員全員がモニタリングできるようにしている	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%		

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	児童発達管理責任者や担当職員が出席する体制を整えています	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	色々な学校の年間スケジュールをコピーさせて頂いています	送迎を実施していないので、毎日の細かい情報共有は難しいので、保護者を通じて情報を共有しています
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	100%		現在、該当児童の在籍がありません
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	必要と感じた際は、保護者に了承を得て、保健師や園等と連携させて頂いています	保護者からの申し出があれば、積極的に連携させて頂きます
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0%	100%		現在、該当児童の在籍がありません
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	新規利用者の場合情報提供をしてもらっている。	研修開催時は、職員と交代で積極的に参加しています
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	100%		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	毎回、保護者が来所されるので、現状の様子など聞き取りさせて頂いています	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0%	100%		
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	初回の契約時に、説明しています	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	保護者が、子どもの療育を見学しながら、職員とお話できる環境作りを行っています	寄り添うことを意識し、一緒に考える観点でお話しています
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		イベントなどの参加の際に自然と保護者同士が会話できるようにと思っています
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	利用日でなくても話を聞けるよう、態勢を整えています	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	契約事項に個人情報の扱いのルールについて定めており、合意の上で、ルールにそった運用を行っています	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	0%	100%	相手の状況に合わせて、メールや直接でのやり取り等を行っています	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	0%	100%	個人情報の兼ね合いもあるので、現在は考えておりません	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	33%	67%	大阪府よりの案内や感染対策がわかるように等、張り出している	職員への周知徹底できるように、しっかり委員会活動を取り入れていく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	定期的に非難のシミュレーションは行っている	訓練の内容。台本を作り取り組んでいく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	毎年、大阪府の研修を受け、事業所内で周知するようにしています	委員会の運営を考えていく 年1回研修 入職時研修
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0%	100%	実績なし	身体拘束の指針を周知する
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0%	100%		食事の提供は、行っていません
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		事案発生時に速やかに報告し、情報共有の上、再発防止に努めています